

# 👉 手話サークル研究班 👈

～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・第1分科会「手話サークル」を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2006年10月現在、川崎3、横浜2、県域13 計18名で活動中！

## ～ '06年神通研集会 第1分科会報告～

☆「聞こえないこと・手話のこと」

一般社会が理解していないところは？

～サークルに入る前は、こう思っていました～

・手話は全国共通だと思っていた！

ろう学校で国語のような手話の授業もなく、校内では手話が禁止され、一般社会で手話を見る機会が皆無に近い状況の中で、家・学校・職場等々、狭い範囲で聞こえない人同士の最良のコミュニケーション方法として発達してきた手話。

健聴者社会に照らし合わせてみると？

全国共通の言語である標準語。この普及にはもちろん学校に国語の授業があること。そしてTVというメディアの役割が大きいのではないのでしょうか。TVが普及していなかった頃の高齢者の方たちの方言がなかなか聞き取れない。意味が通じない。そんな経験をした方はたくさんいると思います。全てのTV番組に標準手話が付いて何年か経ったとき、全国で通じる手話が広まるのではないのでしょうか。

ひとりひとりの手話表現が違う。どちらが正しいの？の疑問は、青森の方言と鹿児島の方言、どちらが正しいの？と同じで、どちらも正しいのですね。

## ～ 定例会 ～

地域サークルの様子や情報交換等を行っています。

☆11月に開催される関東通研集会「サークル」分科会の司会を担当。内容について確認しました。

☆神通研集会の反省会を行いました。一般社会へはまだまだ聞こえないことへの理解は届いていないようです。サークル会員が日頃の社会との関わりの中で、聞こえないことを話題にしてい

く役割の大きさについて話し合いました。☆神通研集会でも出された災害時におけるサークルの役割。緊急を要することなので、今後重点的に取り組んでいきます。

\*見学にいらした2名の方がメンバーとして加わって下さいました\*

【次回定例会】

10月22(日) 13:00～15:00

かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー  
神通研会員のみなさま、お気軽にご参加下さい。

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

2006年もいよいよ後半に突入！

秋は色々な行事や講演会があったり、サークルではXmas会のこともちろほら・・・。

1年なんてあつという間ですね！

サークルでの交流会や学習方法に行き詰ったら、他の地域のサークルの話が聞けるのが、サークル班のいいところ☆

情報交換と世間話で毎回定例会で元気をもらいます。後半年もひびしょうじん☆日々精進でがんばります。

(Docile)